

弘前大学小児科 卒後臨床研修



弘前大学小児科研修スケジュール

初期研修 1～2年目	卒後臨床研修
後期研修 3～5年目	大学病院および関連病院をローテートして小児科研修 (希望者は大学院入学) 大学病院：専門グループに所属し高度医療の研修（1～1.5年） 関連病院：一般小児科研修（1～1.5年） NICU研修：未熟児、新生児医療の研修（6ヶ月～1年） 日本小児科学会専門医の資格取得
専門研修 6年目～	院内および関連病院での専門分野の研修 (希望者は国内外への留学) 専門グループに所属し、専門的診療および研究に従事 学位の取得 日本小児科学会分科会の専門医取得

小児科研修病院

国立病院機構弘前病院、国立病院機構青森病院、青森県立中央病院、青森市民病院、弘前市立病院、むつ総合病院、西北中央病院、十和田市立中央病院、黒石市立病院、三沢市立三沢病院、青森労災病院、大館市立総合病院、岩手県立中部病院、その他

弘前大学小児科の診療体制

小児科の幅広い領域をカバーするために
専門グループによる高度先端医療を実践

- 1) 血液グループ : 血液疾患、悪性腫瘍、内分泌疾患、代謝疾患
- 2) 心臓グループ : 心疾患、呼吸器疾患、消化器疾患
- 3) 腎臓グループ : 腎疾患、アレルギー、免疫疾患、感染症
- 4) 神経グループ : 神経疾患、筋疾患、心因性疾患
- 5) 新生児グループ : 未熟児・新生児疾患

弘前大学小児科週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	神経外来	腎臓外来 心臓カテーテル 検査	血液外来 心臓カテーテル 検査	心臓外来 核医学検査	内分泌・ 代謝外来 腎生検
午後	脳波検査 聴性脳幹反応	総回診 写真見せ 症例検討会 抄読会	1ヶ月健診 超音波検査 (胎児心エコー)	新生児未熟児 発達外来 超音波検査	学会予行 学会報告会

一般外来は（月）～（金）の毎日（午前）

各診療グループのカンファランスは夕方行われている

弘前大学小児科初期研修の内容

- 研修期間は選択必修科目として1ヶ月。
さらにメンター科として1ヶ月、選択科目として1ヶ月選択可能。
(2年間の初期研修期間のうち最大13ヶ月選択可能)
- 4つの診療グループのいずれかに所属し研修。
診療グループの選択については研修医の希望を配慮
研修期間が2ヶ月以上の場合、複数の診療グループをローテート
- 診療グループの一員として、主として入院患者を主治医として担当。
外来では処置係および新患の問診を担当。
- 週1回、津軽地区小児救急医療体制一次救急（弘前市急患診療所：19時から23時）に指導医とともに出向き、小児救急医療の現場を体験する。
- 症例検討会、総回診で受け持ち患者の紹介をする。
最新の英文論文を読み、抄読会で発表する。
地方会、研究会などで発表する。

弘前大学小児科初期研修の特徴

- 1) 高度先進医療の中で小児のプライマリーケアを学ぶことができます。
- 2) グループ診療により複数の担当医から指導を受けることができます。
=広い視野でこどもを診ることができます。
- 3) 入院患者は重症患者が多い（検査や処置が多い）。
=いろいろな処置や検査を経験することができます。
- 4) 津軽地区小児救急体制の1次救急（弘前市急患診療所）に参加し、小児救急医療を経験することができます。
- 5) 3年目以降の後期研修を見据えた、初期研修が可能です。
将来小児科医を目指す場合は、初期研修のうちから専門医を目指したスケジュールで研修ができます。

弘前大学小児科後期研修の内容

1) 研修目標

卒後3～5年の3年間の研修期間とし、総合診療領域（一般小児科）および専門領域に関する研修を行い、日本小児科学会専門医の取得を目指す。

2) プログラム

以下の3つの研修をローテートする。

研修病院、研修期間などは当人の希望も尊重し、教室の研修委員会で協議して決定。

1) 大学病院での研修：1～1年6ヶ月

4つの診療グループを3～6ヶ月ずつローテート。

小児科の専門領域を研修。

2) 関連病院での一般小児科研修：1～1年6ヶ月

基幹病院（国立・県立・市立病院）で主に小児の一般的な疾患・小児救急医療を中心に研修。

3) NICU研修：6ヶ月～1年

NICUが充実している青森県立中央病院、青森市民病院、国立病院機構弘前病院で未熟児・新生児医療を研修。

弘前大学小児科後期研修の特徴

- 1) 研修目的、内容の異なる3つの研修を組み合わせるにより小児の包括的・全身的な見方から、小児の専門領域まで幅広く研修することが可能です。
- 2) 後期研修を終了した時点で小児科専門医の受験資格に必要な症例はすべて経験することが可能で、専門医試験の受験準備は完了します。
- 3) 研修終了後の進路も保証します。
 - ・大学の専門グループに所属し、専門的な診療・研究に従事。
学位取得、小児科学会分科会専門医の取得などを旨とする。
希望により国内外への留学も考慮。
 - ・病院への就職
 - ・開業その他、希望に添うように支援します。

各専門グループで経験可能な症例・手技

血液グループ：血液疾患、悪性疾患、内分泌疾患、代謝疾患

症例：急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、小児固形腫瘍、再生不良性貧血、血友病など。

手技：骨髄穿刺・生検、腰椎穿刺、髄注、中心静脈カテーテル挿入、末梢血幹細胞採取、造血幹細胞測定、骨髄標本作製、移植骨髄採取など。

心臓グループ：心疾患、呼吸器疾患、消化器疾患

症例：先天性心疾患、不整脈、川崎病冠動脈障害、心筋疾患など。重症心不全、難治性不整脈症例が多く、特に複雑心奇形に関しては胸部外科との協同体制により治療・管理を行っている。

手技：心臓超音波検査、運動負荷心電図、心臓核医学検査、心臓カテーテル検査、カテーテル治療（弁形成術、血管形成術、コイル塞栓術、カテーテルアブレーションなど）。心不全、不整脈、冠動脈疾患の薬物療法など。

腎臓グループ：腎疾患、免疫疾患、アレルギー疾患、感染症

症例：難治性ネフローゼ症候群、難治性腎炎症候群、リウマチ性疾患とそれに伴う腎合併症、急性腎不全（末期腎不全）など。

手技：LDL apheresis、血漿交換療法、白血球除去療法、血液透析、腹膜透析など。

神経グループ

症例：てんかん（特発性のものから難治てんかんまで幅広く診療）。急性脳症、痙攣重積など集中治療を要する疾患。先天性筋疾患、先天脳奇形、重症筋無力症など。

手技：ビデオ脳波、電気生理検査、腰椎穿刺、筋生検、乳幼児発達検査など。

小児科専門医への道

専門医受験資格：以下の1) および2) を満たすもの。

- 1) 試験当日に日本小児科学会会員であり、学会会員歴が引き続き3年以上、もしくは通算して5年以上。
- 2) 2年間の卒後臨床研修を受け、その後さらに学会の指定した研修施設において小児科臨床研修を3年以上受けたもの。

症例要約の提出

自ら診療に携わった症例要約（以下の10分野の疾患について各分野群毎に少なくとも2症例、合計30症例）を提出。

10分野

- (1) 遺伝疾患、染色体異常、先天奇形
- (2) 栄養障害、代謝性疾患、消化器
- (3) 先天代謝異常、内分泌疾患
- (4) 免疫異常、膠原病、リウマチ性疾患
- (5) 新生児疾患
- (6) 呼吸器疾患、アレルギー
- (7) 循環器疾患
- (8) 血液疾患、腫瘍
- (9) 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患
- (10) 神経・筋疾患、精神疾患（精神・行動異常）、心身症

専門医試験（年1回実施）

- 1) 症例要約の評価
- 2) 面接評価
- 3) 筆記試験（MCQ形式、120題）



合格率：約70%（弘前大学小児科では今のところ合格率100%！）